

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業

「暮らしの中に生きるふる里の方言」を開催しました。

平成28年3月9日（水）、郷土史家である藤村雅範さんを講師にお迎えし、～方言に見る昔の暮らし～「暮らしの中に生きるふる里の方言」を開催しました。

藤村さんの「方言の良さをもう一度考えてみましょう」という声掛けで講座がスタートしました。



初めに、香川県高松に縁の深い菊池寛などといった有名人にまつわる方言エピソードのお話がありました。中でも印象に残ったのは、石川啄木に関する話です。上京して暮らしていた啄木は、ふと故郷の言葉が聞きたくなり、方言の飛び交う上野駅へ向かった出来事を「ふるさとの 訛りなつかし 駐車場の 人ごみの中に そを聴きに行く」と詠んだそうです。

また、大変興味深かったのは、「人の流れで方言が変わる」というお話です。四国には、伊予弁、讃岐弁、阿波弁、土佐弁の4つがあり、そのうち、伊予、讃岐、阿波の言葉は似通っていますが、土佐に関しては少し異質なようです。その理由として、前者は瀬戸内海に面し、特に近畿の影響も受けたようですが、後者に関しては太平洋に面し、余り他の地域の影響を受けず、独自の方言が形成されたからだそうです。

今回の講座では、方言に関するお話以外にも、ユーモアを交えた地元で伝わる慣習などのお話がたくさんあったため、皆さん楽しそうに充実した時間を過ごしているようでした。普段、私たちが何気なく使っている方言ですが、藤村さんのお話を聞き、暮らしの中に生き続ける温かみや懐かしさのあふれる非常に大切なものだ改めて認識することができました。

